

Fostering the ability to lead a healthy and prosperous life throughout life : Creating technical and home economics (home economics field) lessons based on Shizuoka tea

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-03-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中野, 夏芽, 村上, 陽子, 小清水, 貴子 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00028717

教育実践報告

生涯にわたって健康で豊かな生活を送る力の育成

—静岡茶を題材とした技術・家庭科（家庭分野）の授業づくり—

中野 夏芽¹ 村上 陽子² 小清水 貴子²

(¹静岡大学教育学部附属島田中学校 ²静岡大学学術院教育学領域)

Fostering the ability to lead a healthy and prosperous life throughout life

-Creating technical and home economics (home economics field) lessons based on Shizuoka tea-

Natsume NAKANO, Yoko MURAKAMI, Takako KOSHIMIZU

要旨

本研究では、より良い生活や持続可能な社会の構築の礎となる生活を工夫し創造する力、すなわち生涯にわたって健康で豊かな生活を送る力の育成を目的とした。中学3年生「C消費生活・環境」の学習において、静岡茶を題材として授業実践を行った。家庭科の特質に応じた「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」の4つの視点を重視した題材構成とした。題材終了後には、家族と協力し地域の人々と協働しようとする態度、静岡県生活文化を継承しようとする態度、生活を楽しみ豊かさを味わおうとする態度などの変容が見られた。生徒が共通して考えられる地域教材の設定や、家庭科の特質に応じた視点から題材を捉えることが生涯にわたって健康で豊かな生活を送る力の育成に有効であると考えた。

キーワード： 生涯 健康 豊かな生活 消費生活 静岡茶 地域教材 家庭科の特質に応じた視点

1 はじめに

私たちは、着る、食べる、住む、買うなどの行動を当たり前に行っている。これらの生活習慣は、自立し健康に生きていく上で欠かせないものである。しかし、私たちを取り巻く環境や社会、ライフスタイルの変化などによって、当たり前の生活に対する課題意識が発生する。「このままの生活でいいのだろうか」「〇〇するために～してみよう」「このように変えてみたい」といった生活の見方・考え方を養うことが必要である。

家庭科が学習対象としている家族・家庭、衣食住、消費・環境などに係る生活事象は単独で存在することは少なく、様々な物事が総合的に混ざり合っている。生涯にわたって、自立し共に生きる生活を創造するためには、生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、よりよい生活を営むために工夫することが大切である。家庭科の特質に応じた「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」の視点（以下、家庭科の特質に応じた4つの視点と示す。）で生活事象を捉え、生活を工夫し創造する資質・能力を技術・家庭科 家庭分野（以下、家庭科と示す。）の学習で育成を目指すことが求められている¹⁾。この資質・能力は、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るために必要なものである。

中学校技術・家庭科（家庭分野）の3年生で扱う消費生活の学習では、実際の中学生の消費生活と関わらせて、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影

響について具体的に理解できるようにすることとなっている。家庭科の特質に応じた4つの視点から自分や家族の消費生活を見つめ直すためには、生徒が同じ土台で考えられる地域に密着した題材が良いと考えた。

本校の生徒は東は静岡市、西は袋井市と東西に広い学区から通学してきている。本校の所在地である島田市出身の生徒は3年生全体の1/4程度であり、生徒それぞれが思い描く地域や特産物は様々である。お茶の淹れ方教室を小学生で受講した生徒は多いが、消費者の視点から捉えた授業は行われていない。そこで、全ての生徒が同じ土台で考えられるように「静岡茶」を題材として消費生活の授業を行った。「A家族・家庭生活」「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」の3つの内容を、家庭科の特質に応じた「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」の4つの視点から生活を見つめ直すことで、より豊かな生活を創造しようとする力を育てることができると考え、本研究を行った。

2 題材（静岡茶）について

家族・家庭生活の多様化や消費生活の変化等に加えて、グローバル化や少子高齢社会の進展、持続可能な社会の構築等、今後の社会の急激な変化に主体的に対応することが重視されている。持続可能な社会の構築に向けて、消費者市民社会の担い手として、自覚をもって環境に配慮したライフスタイルの確立の基礎を養うことが求められている。自立した消費者として責任のある消費行動を工夫するためには、消費者の基本

的は権利と責任に関する基礎的・基本的な知識を活用し、自分や家族、地域の消費生活が環境や社会に及ぼす影響を考えることが必要である。

茶の名産地として知られている本県では、県内のあらゆる所でお茶が栽培され、お茶の歴史、文化、景観など優れた資源を生かし、次世代に静岡茶を継承していくための「茶の都」づくりが進められている。さらに、お茶は単なる嗜好飲料ではなく、心を癒し、コミュニケーションを円滑にするツールとして世界中で楽しまれてきた²⁾。国内一位の生産量、産出額を誇っていた静岡茶であったが、年々生産量は減少し、産出額は2019年に鹿児島県に初めて首位の座を明け渡した(図1)。この要因として、生産量の減少と価格の低迷だけでなく、急須で入れるリーフ茶の需要の低迷もあると記載されていた³⁾。

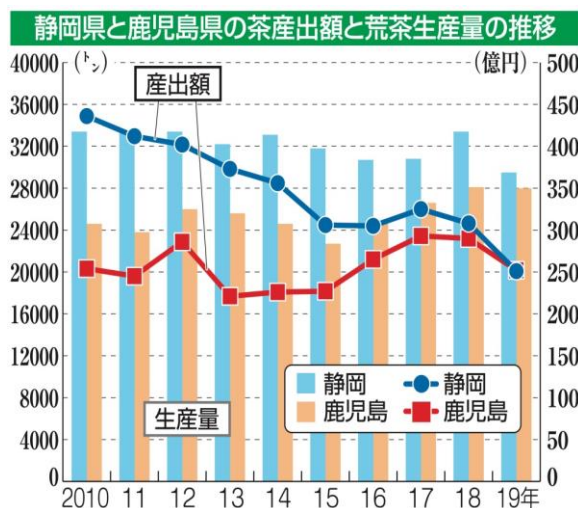


図1 静岡県と鹿児島県の茶産出額と荒茶生産量の推移

以上のことを踏まえ、静岡茶を取り巻く課題について、生活の営みに係る見方・考え方を働かせて課題を解決することで、より豊かな生活を創造しようとする力を育てることができると考えた。静岡茶を通して、家族や地域とのつながりの環、次世代へ静岡茶の環をつなげようとする意識を高める工夫をすることに力を入れ、生徒たちにとって必要感のある学習へとつなげていきたい。そして、静岡茶や静岡県に対する新たな発見や感謝の気持ちを抱くと共に、自分たちの地元の消費生活へと興味関心を広げていってほしいと考える。

3 授業実践

(1) 題材構成

生徒は、前時まで、普段行っている消費行動がどのような消費者の基本的な権利や責任に当てはまるか、これらの行動と消費者市民社会やエシカル消費等の関わりについて学習をした。しかし、自分や家族が毎日行っている消費行動が、社会や環境にどれ程の影響を与えているのかまでは意識できていない。

また、小学校家庭科でお茶の淹れ方についての学習経験がある生徒もいるが、日常的に家庭でリーフ茶を淹れて飲むという生徒は6割程度であった。生徒は、茶畑に囲まれた生活をしているにも関わらず、静岡茶との関わりが少なく、地域の魅力に気付いていないのではないかと考えた。

そこで、本題材では以下に示した家庭科の特質に応じた4つの視点を重視して題材を構想し、授業実践を行った(図2、3)。

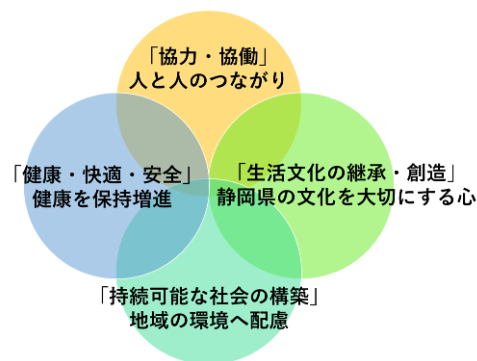


図2 題材を通して大切にしたいこと

時	<課題> ・生徒の活動 目指す生徒の姿
第1時	<p><静岡県民として静岡茶を見つめよう></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちのお茶に対する認知や実態を知る。 静岡県と鹿児島県の生産量や産出額などの実態を知り、茶産業が抱える課題を知る。 リーフ茶と茶飲料についてのウェビングマップを作成し、自分や家族の消費行動のについて振り返り、消費生活の課題を設定する。 <p>静岡茶を将来につなげるためには、ペットボトルではなくリーフ茶を自分で淹れて飲んだり、新たな楽しみ方を見つけたりしていきたい。</p>
第2時	<p><静岡茶の魅力を発見しよう></p> <ul style="list-style-type: none"> 茶業振興協会の方々から静岡茶について学ぶ。(静岡茶の歴史や文化、茶産業が抱える問題、お茶の淹れ方と飲み比べ) <p>静岡茶といっても、種類や淹れる温度によって味が違うので、季節や場面に合わせて、家族や地域の人とお茶を楽しめるようになりたい。</p>
第3時	<p><静岡茶の環をつなげよう></p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会の構築などの視点から、静岡県民として環境や社会のために自分たちにできることを考える。 グループごとに新たな気づきを整理したり、解決策を検討したりする。 <p>静岡茶の環をつなげていくために、友達と遊ぶ時や親戚と集まる時、地域の行事の時にも、お茶を淹れる時間を大切にしたい。</p>
第4時	<p><静岡県民として、お茶から生まれるつながりを考えよう></p> <ul style="list-style-type: none"> 静岡県民として課題を解決するために、お茶を通じた繋がりや残していきたいものについて、3つのテーマ(人とのつながり・健康で快適な生活・持続可能な社会)から考える。(ジグソー学習) <p>お茶を家族や地域の人と共に飲むことで、関係が良くなる。お茶を食べたり、粉末茶として丸ごと飲んだりすることでさらに健康になる。これまで捨てていた茶殻を掃除に使えば、エコにも繋がる。</p>

図3 題材計画

(2)授業実践

実践場所：静岡大学教育学部附属島田中学校

実践日時：令和3年7月～9月

対象生徒：第3学年3学級 計106名

(男子51名 女子55名)

題材の第1時に、静岡県民として静岡茶を見つめるために、アンケート調査から自分たちのお茶に対する認知や実態を確認し、データから静岡茶と鹿児島茶の現状や課題について学んだ。その後、リーフ茶とペットボトル茶についてのウェビングマップを作成しながら、自分や家族の消費行動を振り返った(図4)。

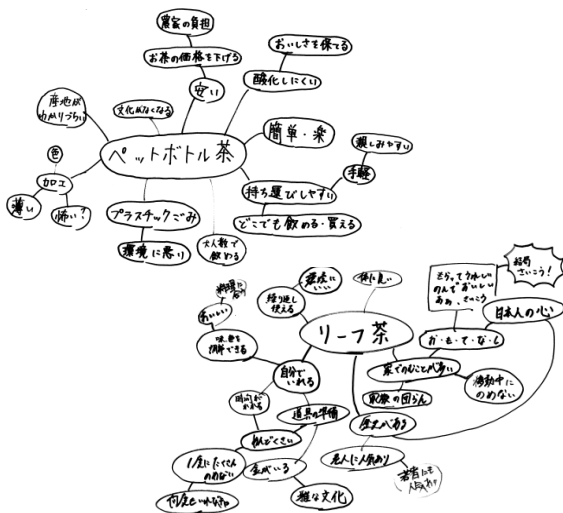


図4 リーフ茶とペットボトルのウェビングマップ

これをもとに、静岡茶に関する消費生活について問題を見出し課題を設定した。「静岡茶を守っていくために私たちにできることは何だろう」「静岡茶を手軽に美味しく飲む方法は無いのだろうか」「静岡茶を通して地域ともっと繋がるためには何をしたらいいだろう」等といった課題が挙がった。

第2時では、島田市茶業振興協会の方々を講師として招聘した。静岡茶の生産から販売を担っているため、静岡茶の歴史や文化についてだけでなく、静岡の茶産業の危機についてお話して頂いた。その後、お茶の淹れ方教室として茶葉に適した淹れ方を教えて頂き、生徒は5種類のお茶を飲み比べて自分の好みの茶を見つけたり、各々質問をしながら静岡茶を楽しんだりする様子が見られた(図5)。



図5 お茶の淹れ方教室の様子

第3時では、前時までに学んだことをもとに、持続可能な社会の構築の視点から、静岡県の消費者として自分たちにできることは何かを考える活動を行った。また、消費者だけでなく静岡茶の生産者、販売者に提案するアイデアや解決策も出し合った(図6)。

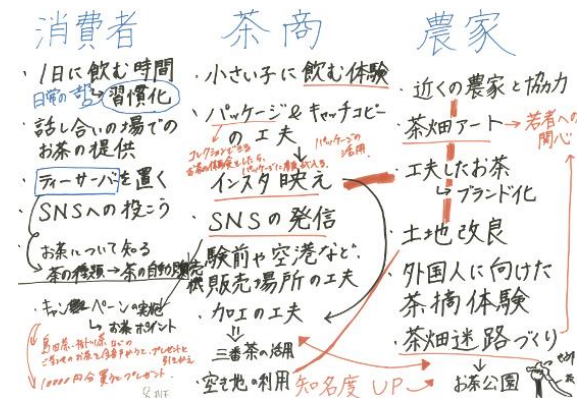


図6 消費者・茶商・農家の視点

第4時では、静岡県民として課題を解決するために、3つの資料を使ってお茶を通したつながりや将来に残していきたいものについて考えた。エキスパート活動では、①人とのつながり(コミュニケーションツールとしてのお茶)②健康で快適な生活(緑茶の成分と健康)③持続可能な社会(お茶の様々な活用方法)のうち、担当する資料の要点を小集団で話し合った。ジグソー学習では、エキスパート班で出た要点を話し合い、お茶から生まれるつながりについて考えた(図7)。

「リーフ茶を飲むことで、ペットボトルのごみが減って環境に配慮することができる。」「家族や友達、地域の人と一緒に楽しみ、人とのつながりが深まる。」「いつも捨てていた茶殻を食べるとより栄養を摂ることができる。」など、様々なつながりがあることを共有した。



図7 静岡茶から生まれるつながり

第5時では、第1時に設定した課題を振り返り、題材全体を通して学んだことや考えたこと、これから実践していきたいこと等をレポートにまとめ、仲間や家族に紹介し題材のまとめとした。

題材終了後に行った学習内容の振り返りアンケートでは、静岡茶についての学びが深まり、さらに静岡茶に興味をもった、自分でお茶を淹れて飲むようになった、以前よりも静岡茶が好きになったという生徒が多かった(図8)。茶殻が活用できることを知ったので茶殻を料理に加えたり、掃除に使ったりした生徒もいた。また、静岡茶の農家や産業に関する調査をした、イベントに参加したという生徒もいた。

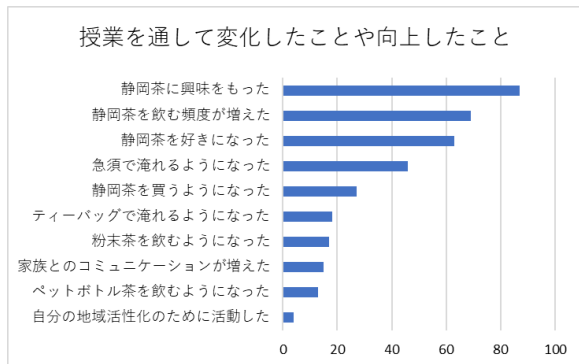


図8 授業後アンケート

振り返りアンケートの自由記述においては、家庭科の4つの視点に着目した記述が見られた。「お茶を楽しむと心に余裕が生まれ、心が豊かになって人とのつながりが深まり、より良い社会になるのではないか」「家族とコミュニケーションをとったり、受験勉強でリラックスしたりするときにお茶を飲みたい」「お茶を飲んだり食べたりすることは健康につながり、掃除に取り入れることは節約と環境への配慮につながるから、お茶を活用していきたい」「自分がリーフ茶を飲み続けることで、次世代へ美味しいお茶を残すことができるだろう」「自分のふるさとに誇りをもつことができた」等、静岡県の消費者の一員として、静岡茶や地域社会とのかかわりを見つめ直している様々な記述が見られた(図9)。

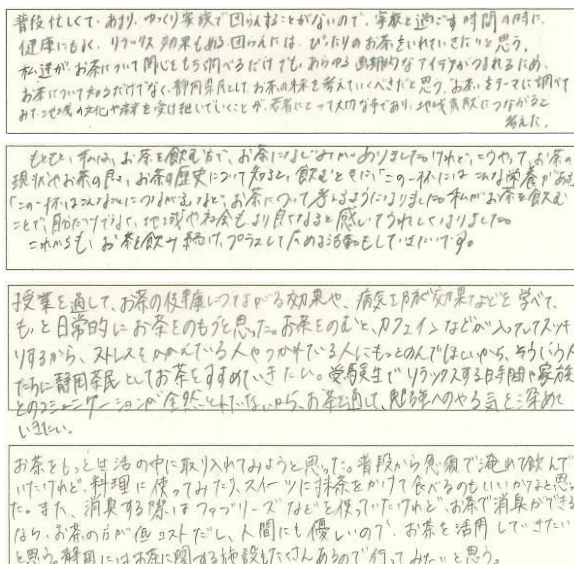


図9 生徒の振り返り

5 おわりに(考察と課題)

本研究では、①身近な地域を教材化すること②家庭科の特質に応じた4つの視点を重視した題材構成の2点を手立てに、生涯にわたって健康で豊かな生活を送る力の育成を目指した。

①身近な地域を教材化することについて

学習後のアンケートからは、静岡茶についての新たな学びや考えが生まれ、興味や関心が向上したことが読み取れる。また、自分たちの生活における静岡茶の在り方を見直し、お茶を飲むときに静岡茶の背景や自分の健康について考えるようになったり、家族との関わりが増えたりしたという変化も見られた。静岡茶を通して、自分や家族の健康に対する意識や、より良い生活を創造する力の向上が示唆された。

以上のことから、生徒が生活している地域のもを教材とすることは、地域社会への関心を高めるだけでなく、自分や家族の健康で豊かな生活を送る力の育成に有効であると言える。

②家庭科の特質に応じた4つの視点を重視した題材構成について

本実践では、題材全体で「協力・協働」「健康・快適・安全」「生活文化の継承・創造」「持続可能な社会の構築」を意識させる資料の提示や活動の設定を行った。

振り返りアンケートの自由記述からは、自分や家族の生活を見直す内容だけでなく、地域や社会のために行動する意欲や、将来へ静岡茶を残すための使命感を感じる内容も見られた(図9)。また、将来の生活や健康、家族や地域の人とのコミュニケーション、環境に関する記述が見られ、静岡茶から生まれるつながりを一人ひとりが見出したと考えられる。

以上のことから、家族と協力し地域の人々と協働しようとする態度、静岡県の生活文化を継承しようとする態度、生活を楽しみ豊かさを味わおうとする態度などを養うことができたことと示唆される。よって、教科の特質に応じた視点を重視した題材構成は、生涯にわたって健康で豊かな生活を送る力の育成に有効であると考えられる。

さらに、茶業振興協会の方を招聘し、茶業の現状や淹れ方を学んだことで、茶業に関わる仕事に興味をもった生徒も見られた。地域の自治体や企業と授業づくりを行うことで、キャリア教育の一貫しての役割を果たせることも明らかになった。

本研究では「静岡茶」を題材として扱ったが、国内には有数の茶産地があることから、各地の茶産業の現状や課題を取り上げれば、「茶」は他地域でも題材として有効であると考えられる。今後は、公立中学校での実践や茶産地の茶業との比較を通して、より有効な手立てを検証していきたい。

附記

本実践報告の全体執筆と授業実践は中野が、本実践報告及び実践に関する全体的な助言等は村上、小清水が担当した。

参考文献

- 1) 文部科学省 (2018) 『中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 技術・家庭編』 学校図書
- 2) 静岡県経済産業部 農林業局 茶業農産課 (2019) 『ふじのくに茶の都しずおか構想』
- 3) 静岡新聞 (2021. 3. 13) 『本県茶産出額 1 位陥落 19 年 史上初、鹿児島県に譲る』